

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		初生こどもの家 てんし ・ 第2てんし		公表日 2024年9月30日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11		活動するものによって、部屋を移動することにより少人数で活動できるようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11			人員確保に努めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	6		バリアフリー化はされていない。検討して改善をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	3	活動するものによって、部屋を移動することにより少人数で活動できるようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11		子どもの様子を見ながら必要に応じて言葉掛けをしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11		打ち合わせの際に、改善すべきことを話す場を作っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		保護者対応や面談の際に出た意見や意向を打ち合わせの際に話し合い、どうするか決めている。	意見や意向を聞く場をもう少し増やすことを検討している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		打ち合わせの際に、改善すべきことを話す場を作っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	2		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	3		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	0	11		まだ公表できていないため、公表する必要がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11		時間がある際に、子ども達一人ひとりの課題を深堀し話し合いをする時間を作っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		時間がある際に、子ども達一人ひとりの課題を深堀し話し合いをする時間を作っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		打ち合わせの時間も含め、どの様に支援をしていくのか、指導統一をするために、話し合いの場をもうけている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	3		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		職員で話し合い決めている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		職員と話し合い、現段階で必要なことを取り入れるために考え、話し合いの場をもうけている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11		打ち合わせの際に、話し合いをしている。	長期休みの際に、詳細に事を伝えることが出来ない時があるため、何かしらの手段を検討していかなくてはいけない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	1	日報や連絡帳のほかに個人での子どもの様子を書くようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	1	面談を行う際に、事前に質問用紙に、回答をしてもらい、保護者が何を求めているのかを確認している。	事前の質問用紙の内容の改善を検討していかなくてはいけない。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	11			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11		選択活動を取り入れたり、全員が参加して遊ぶ時間を作り、子ども達が全員で遊ぶものを話し合ったりしている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11			相談支援事業所の方との関りを増やしていかなくてはいけない。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	2		関係機関との連携をもっと図っていかなくてはいけない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	1	下校時間の違和感があった場合は、学校に連絡をしたり、確認をしたりしている。	学校側での情報共有できない時や認識の違いがあり、その部分での改善策が必要。個人情報や学校側での問題もあるため、難しい課題。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	2	紙媒体での情報共有や、分からないところや様子を確認している。	共有するまでに関しての、話し合いや情報共有を検討していかなくてはいけない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	2	預かっていた年数分の、様子や成長過程用紙にまとめて、どの部分に課題があるかを伝えるようにしている。	共有するまでに関しての、話し合いや情報共有を検討していかなくてはいけない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	4		事業所内の研修のみ。外部からの助言をいただくための研修を検討していかなくてはいけない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	9		どの様に取り入れていくか検討していかなくてはいけない。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	8	3		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		保護者対応の際に、些細なことでもあったことを伝え、その話の中でお家での様子や、親子間での状況などを聞き現状を把握するようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	6	保護者対応の際に、相談事や悩みごとを聞き、それに対するアプローチの仕方などを伝えたり、一緒に考えたりしている。	保護者対応の際なので、実際に時間をつくり、研修時間が取れないか検討していかなくてはいけない。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11		日々質問があったり、伝わり切れていないと感じる時は、再度説明をさせて頂いている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11				
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11		年に2回ある、個別支援計画の面談の際に、説明をしながら、同意を得ている。その際に、今どんな問題があるかや、事業所側の改善するべきところを確認している。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11		個別支援計画の面談時や保護者対応の際に、困ったことがあったら相談してくださいと声をかけさせて頂いている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	10		どの様に取り入れていくか検討していかなくてはいけない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		何が問題だったか、事業所内で話し合い、問題解決をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11		毎月、事業所でお知らせを発行している。	活動概要や行事予定は発信出来ていないこともあるので、改善が必要。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11		意思の疎通をするために、小さな変化にも気付くように心がけている。何かあった際は、保護者に伝えるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	10		改善検討が必要。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	1	お迎えまでに時間がある際はシミュレーションをして、訓練をしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	1	月1回、避難訓練や災害時に置きそうなことを想定しながらシミュレーションをして訓練している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	1		誰にでも把握できるように情報をまとめておく必要がある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	1		アレルギーに関して、年1回の聞き取りアンケートを検討する必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		その場その場に合わせて、必要な内容を取り上げ研修をしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		何かあった際は、緊急連絡先に連絡することを伝えてあり、緊急連絡先も何人か書いて頂いている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		起きた際には、職員で話し合いの場を設け、何が問題だったのかを話し合い、再発しないための解決策の意見を出し合っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		虐待が起きないように、研修をして日々の行動の振り返りをしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	1	身体拘束をする際には、保護者に了承を得て許可書を頂くようにしている。		